

科目名	広島からの平和学: 実践の方法
単位数	2.0
担当者	広島平和研究所 教授 山田 康博
履修時期	前期
履修対象	1・2年
講義形態	講義
講義の目的	受講者が「原子力と核兵器の時代」における平和とは何かという問題について考察する機会をもつことが、この授業の目的です。この授業のもう一つの目的は、「原子力と核兵器の時代」に起こったアメリカによる原爆の使用と核兵器をめぐる国際関係にかかわるいくつかの重要な局面について、受講者が考察する機会をもつことです。
到達目標	この授業の受講生が到達すべき目標は次の二つです ① 核兵器をめぐる現代史についての基礎的な知識(例えば、アメリカが対日原爆使用に至った道のりや、核兵器保有をめぐる大国間に競争が展開していったようす、核兵器の削減と核軍備の制限や管理にかかわる協定や条約の名前や調印年など)を身につけること。(学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]の①多様な文化・価値観を尊ぶための、人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を有している[知識・技能]に関連した到達目標。) ②核兵器と平和の関係についての基礎的な知見と思考力(例えば、「核兵器による抑止(核抑止)」の考えや核兵器戦略態勢の実態を理解し、それらがもつ理論上のあるいは現実上の問題点を指摘できる能力)を獲得すること。(学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]の①多様な文化・価値観を尊ぶための、人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を有している[知識・技能]、および③発見した問題について論理的に考え、判断することができる(思考力・判断力)に関連した到達目標。)
受講要件	ありません。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	(事前学修) 指定された講読課題を読んでください。 (事後学修) 講義で触れられた論点と講義内容について整理して振り返るとともに、「講読課題についての提出課題」の作成に取り組んでください。それらに加えて、参考文献の講読をすることが望ましいです。
講義内容	1. 授業案内。この授業について説明します。 2. 平和とは何かー「平和」の概念・定義。講読課題: 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』1-39頁、46-49頁。 3. 「原子力と核兵器の時代」とはどのような時代なのか。講読課題: 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』158-189頁。 4. 「原子力と核兵器の時代」の始まりと原子爆弾の開発。 5. 日本に対する原子爆弾使用への道のり。講読課題: Henry L. Stimson, "The Decision to Use the Atomic Bomb" (Harper's Magazine, February 1947, pp. 97-107掲載論文のテキスト版。)[Web classに掲載予定]。 6. 原子爆弾の対日使用をめぐる神話。講読課題: 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』118-157頁。 7. 原子爆弾の使用についての解釈と記憶。講読課題: 山田康博「確立されなかった対日原爆使用をめぐる定説ー2016年までの研究史概観ー」『広島平和科学』第37号、2016年3月、19-31頁[Web classに掲載予定]。 8. 冷戦と核兵器開発競争。講読課題: 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』40-45頁。 9. 核兵器開発がもたらした災害と反核兵器国際世論の台頭。 10. 核兵器の垂直的拡散・水平的拡散。講義終了後、第1回小テスト。 11. 核兵器と国際危機ーキューバ・ミサイル危機を中心に。 12. アメリカの核兵器による安全保障戦略の展開。 13. 日本と核兵器。講読課題: 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』106-117頁。講義開始時に講読課題についての提出課題の提出を締め切ります。 14. 核兵器不拡散体制、核兵器保有量の削減や制限、核兵器の不使用。講読課題: 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』50-53頁。講義開始時に講読課題についての提出課題の提出を締め切ります。 15. 第2回小テストとこれまでの学習内容のふりかえり。
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	小テスト2回(第1回40%+第2回50%)、講読課題についての提出課題10%。 2回の小テストを、教室において授業時間中に実施する予定です。事情により小テストを受けられなかった履修者で、小テストの追加実施を希望するかたは、各回の小テスト終了後に授業担当教員にその旨を申し出てください。各回の小テストを実施する前には申し出を受け付けません。2回の小テストは期末定期試験に代わるものです。期末定期試験を受験しなかった者に対して追試の実施を認めるのと同様の理由がなければ、小テストを受けなかった履修者に対する小テストの追加実施をしません。
教科書等	教科書 日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』法律文化社、2020年。 授業内容の欄に記してありますように、この教科書以外にも講読課題があります。それらをWeb class内に掲載しますので、閲覧してください。

	<p>参考文献</p> <p>ウード・ウィルソン(黒澤満監修、広瀬訓監訳)『核兵器をめぐる5つの神話』法律文化社、2016年。</p> <p>NHK取材班『アメリカの中の原爆論争—戦後50年スミソニアン展示の波紋』ダイヤモンド社、1996年。</p> <p>黒澤満『核軍縮は可能か』信山社、2019年。</p> <p>ロバート・ケネディ『13日間—キューバ危機回顧録—』毎日新聞外信部訳、中公文庫、2001年。</p> <p>山田康博『原爆投下をめぐるアメリカ政治—開発から使用までの内政・外交分析—』法律文化社、2017年。</p>
担当者プロフィール	
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	授業実施教室で授業時間内に行ないます。
アクティブ・ラーニング	
キーワード	核兵器、原子力、原子爆弾(原爆)、1945年の原爆使用、核兵器不拡散、核兵器保有量の削減・制限、キューバ・ミサイル危機、アメリカ。
備考	いくつかの回の講義の中で、映像教材を使用するかもしれません。 講義用資料を、各回の講義開始までにWeb class内に掲載します(講義用資料を印刷して配布しません)。